



Title	IDUN23号刊行にあたって
Author(s)	
Citation	IDUN ー北欧研究ー. 2019, 23
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/71766
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

IDUN23号－北欧研究－刊行にあたって

本号は大阪外国語大学時代から、大阪大学外国語学部・世界言語研究センターを経て、現在の大阪大学外国語学部・言語文化研究科言語社会専攻に至るまで、長年デンマーク語教育と研究に携わられ、デンマーク語専攻を牽引するとともに、本誌『IDUN－北欧研究』編集に多大な貢献をしてくださった、新谷俊裕先生のご退職を記念する特別号です。

本誌執筆者は、研究室のスタッフに加えて、元同僚である名誉教授の先生方、非常勤講師として教育指導にお力添えいただいた諸先生方、新谷先生とゆかりのある我が国とデンマークにおける北欧研究者の諸先生方、北欧語研究に携わる若き研究者諸氏、総勢 26 名を数えます。

新谷先生は、1986 年 4 月に大阪外国語大学に赴任されて以来 33 年間、外国語学部デンマーク語専攻におけるデンマーク語教育・研究の中核的存在として活躍されてきました。本誌に掲載しましたご経歴・ご業績が示す通り、先生は日本を代表する印欧比較言語学者およびデンマーク語学者です。印欧比較言語学は先生が長年研鑽を積まれたコペンハーゲン大学大学院時代に精魂を傾けて研究してこられた分野です。1985 年に発表された“On Winter’s Law in Balto-Slavic”は、印欧祖語およびバルト・スラヴ語歴史アクセント論研究者にとって無視することのできない論文です。この論文は 2009 年発行の印欧祖語およびバルト・スラヴ語歴史アクセント論研究論文集に再録され、これにより新谷先生の印欧比較言語学者としての功績は世界的に知られることとなります。デンマーク語学研究については、主に 2 つの分野での功績が認められます。第一にデンマーク語文法においてです。動詞の態、動詞の動作態様、モダリティ、デンマーク語のコンマ法など、新谷先生によって日本に初めて紹介され解説が試みられた文法事項は数多くあります。また先生はこれらの研究成果を論文で発表するだけにとどまらず、授業内においても常に最新の知見として学生に示してされました。第二に日本におけるデンマーク語教育およびデンマーク語学習の普及においてです。『デンマーク語独習コンテンツ』（2009 年）や『世界の言語シリーズ 10 デンマーク語』（2014 年）など、一般に向けてのデンマーク語学習ツールの作成に加えて、『北欧語鳥類名称と名辞典』（2005 年）や『デンマーク語固有名詞カナ表記辞典』（2009 年）などの辞書類の編纂が挙げられます。これらのテキストおよび辞典により、「デンマーク語」の存在自体が日本でもより広く知られるようになり、また大阪大学外国語学部デンマーク語専攻が日本で唯一デンマーク語を学べる国立大学の教育機関として広く認知されるようになりました。研究と教育現場における新谷先生の常に真摯かつ実直なご姿勢は、研究室スタッフにとっても指導を仰

ぐ学生にとっても、大いに啓発されるものでした。先生のデンマーク語をはじめとする言語に関する該博な知識は、まさに先生がこれまでの広範囲に亘る言語研究に精進されてもたらされた賜物に他なりません。私たちからのどんなに些細な質問にも、いつも丁寧にかつ迅速に答えてくださる先生にどれほど感謝してきたことでしょう。先生は普段はどちらかというと寡黙でシャイなご性格でいらっしゃいますが、言語についてお話をなさるときに示される非常に情熱的な語り口、まなざし、そして時折もらされる温かい笑みとユーモアは学生、私たち教職員を強く魅了し、先生は在校生、卒業生に広く慕われています。

研究者として、教育者として、そして同僚として、余人をもって代えがたい新谷先生の定年退職による影響は計り知れず、2019年度からは非常勤として週に2回3コマの授業を引き続きご担当いただくことになっております。先生にはこれからもご指導・ご助言を賜りたく、どうぞよろしくお願いいたします。

これまでの新谷俊裕先生の多大なご貢献に心より感謝の意を込め、さらなるご活躍とご健勝をお祈りして、本記念号を献呈したいと思ひます。

前号が刊行されてからこの2年の間の研究室の異動についてご報告いたします。2012年4月より6年間スウェーデン語専攻の外国人特任教員として在職してこられた Ulf Larsson 先生が2018年3月末に任期を終え帰国されました。Larsson 先生は、スウェーデンの研究者の招致や学生の留学支援等、多大な貢献をして下さいました。その後任として、2018年4月1日より Gunnel Bergström 先生が着任されました。Bergström 先生はわずか1年ではありましたが、北歐文学朗読会や卒業論文のポスター発表の開催など、とりわけ学生の教育において大きな働きを担って下さいました。また2018年12月より私たちの研究室に新たなスタッフが加わりました。大阪外国語大学、大阪外国語大学・大学院、およびデンマーク・ロスキレ大学・博士課程においてデンマーク語学研究で研鑽を積み、2013年にロスキレ大学にて博士号を取得、2009年からは非常勤講師としてデンマーク語・スウェーデン語専攻の授業を担当してこられた大辺理恵先生が「大阪大学・H30年度優れた若手研究者の雇用拡大枠」で特任講師として採用されました。この4月からは新谷先生の後任として、正式にデンマーク語専攻のスタッフとして加われ、新進気鋭のデンマーク語学研究者・教育者としてのスタートを切られます。私たち研究室一同が大辺先生に大きな期待を寄せるところです。

最後になりますが、ちょうど本誌の編集作業の最終段階に入っていた2月8日に予期せぬ悲報がもたらされました。私たちの研究室において、1968年より39年間デンマーク語・スウェーデン語教育・研究に尽力された菅原邦城先生が享年

76歳で逝去されました。先生は北欧の神話、語学、文学と幅広い分野を研究対象とされるだけでなく、デンマーク語、スウェーデン語、ノルウェー語そしてアイスランド語の全てに精通され、まさに真の北欧学者でいらっしゃいました。近年は出版社から依頼を受け、新たな「北欧神話」論をご執筆中、初稿に手を加えられる道半ばで病に倒れられ、ご闘病中でした。本当に残念無念でなりません。ここに研究室一同、先生に心から哀悼の意を表したいと思います。

付記

前号 22 号から本誌を大阪大学機関リポジトリ「OUKA」に登録し、今後は電子ジャーナルとしてオンライン上でのアクセス (<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/portal/doi.html>) も可能となります。前号でもお知らせしましたとおり、今後専任教員の彙報は大阪大学 HP 上の教員総覧で更新し、前号の正誤表に関しても、両専攻語の HP 上で公開していきます。また各専攻語の活動や、主だったトピックについても、下記に記します両専攻語のホームページで更新してまいりますので、アクセスしていただければ幸いです。昨今、大学専任教員が大学管理運営業務(学務)や事務関連の雑務に割く時間と労力は年々増え、一方で研究に携わる時間は逼迫している状況です。しかしながら日本における数少ない北欧研究の学術ジャーナルとして、学術的価値の高い知見を社会に発信すると同時に、北欧研究者を志す大学院生、若い研究者の研究成果を発表する場を維持すべく、今後も隔年ではありますが刊行を続けてまいりたいと思います。

なお今号 IDUN23 号刊行にあたって、言語文化研究科より平成 30 年度研究推進経費による研究成果刊行助成を受けたことを感謝をもって申し添えます。

(文責：田辺欧・當野能之)

2019 年 2 月 12 日

大阪大学 言語文化研究科・言語社会専攻
デンマーク語・スウェーデン語研究室

デンマーク語専攻 <http://www.sfs.osaka-u.ac.jp/user/danish/top.html>
スウェーデン語専攻 <http://www.sfs.osaka-u.ac.jp/user/swedish/startside.html>